〈情報連絡員報告・７月分〉

懸念されていた製造業の収益状況DIが大幅に好転

～雇用人員のDIが製造業、非製造業ともに増加～

＜東京都中央会＞

７月の情報連絡員報告によると、原材料の値上げ等により懸念されていた製造業の収益状況DIが大幅に好転（13.8ポイント）した。また、雇用人員のDIが製造業、非製造業ともに増加（製造業：6.2ポイント、非製造業：8.3ポイント）した。特記事項からも数件の明るい報告があったが、原油の高騰が経営を圧迫している状況は変わらず、非製造業の各業種から燃料費の高騰に悩む報告がよせられた。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

＜特記事項欄より＞

「食料品」

・価格も安定し、景気が上向きになった実感がある。以前のような値引き合戦はなくなったようだ。値段が高くても安全な商品を顧客が求めるようになったのだろう。

「繊維・同製品」

・男女を問わず子供、シニア向けの売上は順調。特にシニアは日除けプラスおしゃれで高級品を購入するので業界にとってはうれしい傾向にある。一方でヤング層の帽子離れが深刻になってきたようだ。

・従来、夏は忙しいのだが、今年は売上が減少している。前年度対比で30％のダウン。またテント生地の値上げも懸念され、今後の動向はまったく読めない状況にある。

「化学ゴム」

・昨年の６月に続き、原材料の値上げを理由としたタイヤの値上げが発表された。卸価格の値上げがあっても小売店は現状では売価を上げることは出来ない。

「一般機器」

・原油の高騰による印刷材料の値上げがでてきた。業界としては値下げ競争が終わり、価格が安定するようだ。

「その他製造」

・夏休み前の工事が本格的に開始された。稼働率は120％となり、人手不足の状態が９月まで続くと思われる。稼働率の上昇により単価がわずかだが上昇している。

「小売業」

・ドラッグストアや大手スーパーの客集めのための囮廉売行為に困っている。

・７月は晴天・高温日が少なく、売上高は前年比で５～６％のダウン。夏といえば「冷奴」が定番であったが、「おかず」食品の選択肢が増え、近年は消費動向が大きく変化したようだ。

「サービス業」

・廃業件数が昨年よりも多くなっている。主燃料である重油の高騰が経費にひびいている。

・ここ数年、衣類のカジュアル化でクリーニング需要は大きく落ち込んでいる。また、原油の高騰が大きな負担である。さらにクールビズが推奨されているが、業界にとってはマイナス要因となりそうだ。

「運輸業」

・７月になっても荷動きは停滞している。自動車関係は比較的好調だが、鉄鋼関係はここに来てやや減少の傾向。燃料費の高騰が収益を大きく圧迫している。

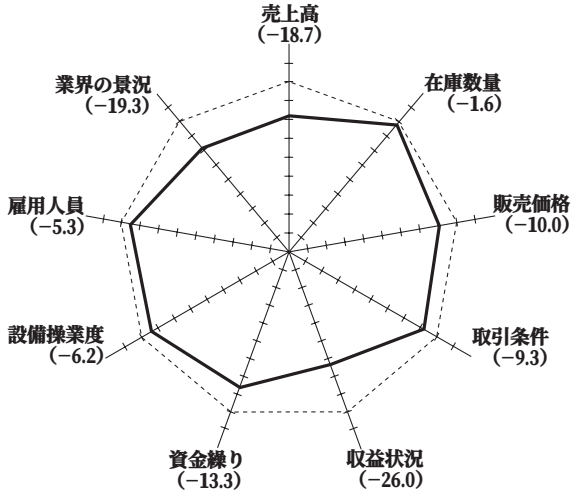
＜要望事項欄より＞

＊「食育」への取り組みにバックアップをしてほしい。

＊特種外来生物の指定には経済的な観点を含む、様々な観点からの熟慮を切に願う。　[小売業]

＊原油の高騰に対する安定策を要望する。　[サービス業]

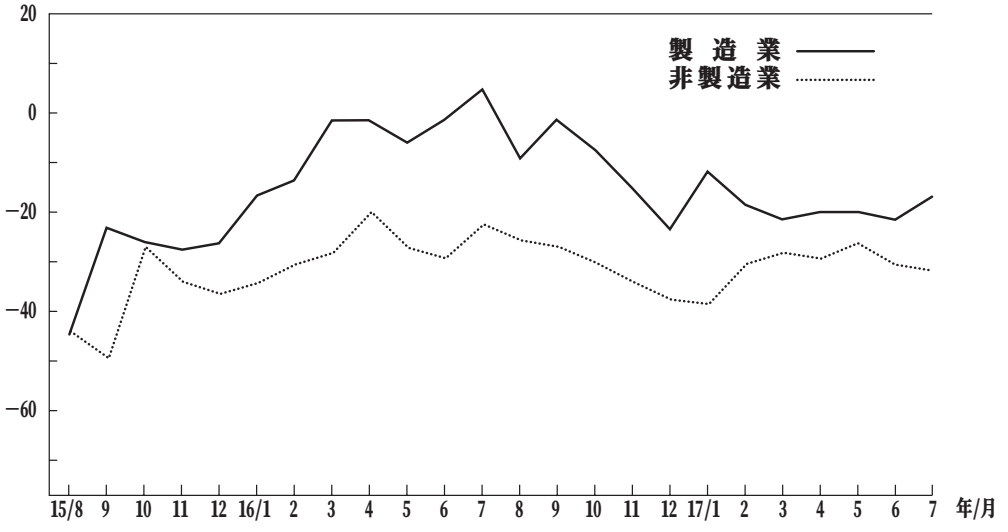
７月のレーダーチャート（全産業、前年同月比DI値）



(注)点線の９角形が「DI＝０」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

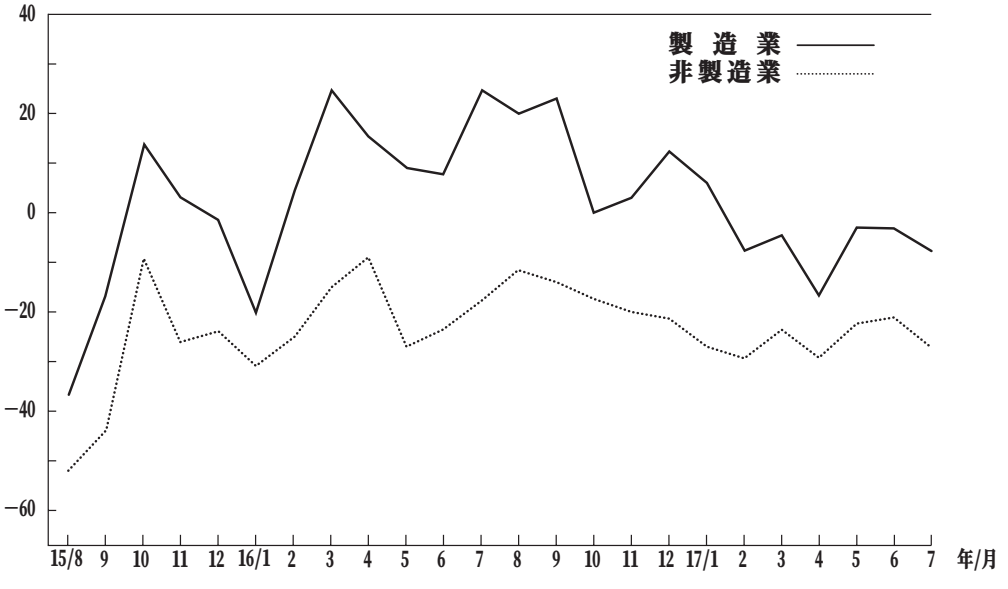
業界の景況DIの変化（H15.8～H17.7）

（前年同月比）



売上高DIの変化（H15.8～H17.7）

（前年同月比）



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。